

クラウドサービス導入の検討について(案)

1 クラウドサービス導入の背景

- ① 双方向大容量通信網の全国提供
- ② ビジネスモデルとしてのクラウドサービスの普及
- ③ 厳しい財政状況
- ④ 地理的デバイドの存在

2 クラウドサービス導入の際の効果発現に必要な条件

- ① コスト効果
 - 広さ(どこまでの業務を共同化するのか)、深さ(ハード・ソフトをどこまで共同化するのか)、数(参加者数)
 - 業務標準化
 - クラウドに適した業務の選択
- ② 機能向上効果
 - 公共サービスを支援する既存のシステムの導入について、自己開発に比べどこまで容易に導入できるのか
 - クラウドサービスのメニュー

3 クラウドサービス導入の効果計測方法

- ① コスト
 - IT資産の総コスト(構築、運用)
 - 人件費
 - 新業務フローに伴う改善(改悪がないように)
- ② 機能向上
 - 業務のリードタイムの改善
 - 住民側の取扱いの容易さ
 - ニーズへの適合性の向上

クラウドサービスの提供側に求められる要件について(案)

1 サービスレベル、個人情報保護の確保、契約内容の透明化

- ① QoS やセキュリティレベルに関する共通的な評価基準の設定
- ② カタログ等の情報開示に係る標準の作成
- ③ 標準契約書の作成
- ④ マルチテナント環境におけるセキュリティ環境確保
- ⑤ ディザスターリカバリー

2 相互運用性の確保

- ① 相互運用技術の開発・標準化
- ② 相互運用を実現する標準インタフェース
- ③ データ・ポータビリティの確保

3 可視化(サーバの所在等)

- ① 契約を保護する法令が属する国・地域
- ② 内部統制との関係
- ③ SLA での措置